

公表

事業所における自己評価結果

| | |
|------|-----------------|
| 事業所名 | 放課後等デイサービスぶるめりあ |
|------|-----------------|

公表日 2025年 3月 3日

| チェック項目 | | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 |
|---------|---|----|-----|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 5 | 0 | 広めの訓練室を2部屋用意した。 | 道具や設置物が今後増えていくことが予想されるので、配置に気を配る。 |
| | 2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 5 | 0 | 法令に順守している。 | 採用時期に気を付け、今後も維持していく。 |
| | 3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 5 | 0 | 勉強部屋と遊びの部屋を分けている。基本的に2階は使わずに1階のだけで児童を見て、職員の目が行き届くようにしている。 | 遊びで勉強の部屋に入ってくる児童に対しての対応方法を気をつけ、自然と氣を遣う方向に持っていくようにしていく。 |
| | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。 | 5 | 0 | 勉強部屋と遊びの部屋を分けている。毎日清掃している。 | 職員によって清掃に対する気持ちにムラがあるので定期的に呼びかけ気をつけていく。 |
| | 5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | 5 | 0 | 基本的に部屋はたくさんあるので適宜使えば問題はない。必要とあればマンツーマン対応などで2階を使用することも可能。 | 人数が増えても子どもの状態をよく見ることを継続していく。 |
| 業務改善 | 6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | 4 | 1 | HUGを活用して行っている。 | 左記を継続。しかし、理解していない職員も一部いるので、教育を行っていく。 |
| | 7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 5 | 0 | 今年度からの事業なので今回が初。 | 今後も継続して対応していく。 |
| | 8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 5 | 0 | 就業前後、車内などで業務の話し合いを常にしている。 | 今後も継続して対応していく。 |
| | 9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 3 | 2 | 口頭ではあるが行政や銀行など第三者からは評価は受けている。 | 文書などで必要となる公式な評価はまだ受けていないので、受け入れて改善につなげていく。 |
| | 10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 4 | 1 | リタリコ、HUG、行政のオンライン研修や講義、会議を受けている。 | 開業当初は、職員の人数が少ないので全員を受けたり、受けた人が出社後や退勤前にみんなに報告することでまかなかていたが、最近行えていない。今後、報告のシステムの考案も必要。 |
| 適切な支援の提 | 11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 5 | 0 | 玄関やホームページで公開している。 | 変化があれば順次改正していく。 |
| | 12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | 5 | 0 | 左記通り順次行っている。 | 今のところ期限も守っているので、維持できるようにスケジューリングをしっかりと整えていく。 |
| | 13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | 5 | 0 | 作成時職員全員に確認してもらっている。 | 今は職員の人数も少ないので、徹底できているが、多くなってくると閲覧を徹底するのが難しくなることは予想されるので順次対策していく。 |
| | 14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | 5 | 0 | 作成時職員全員に確認してもらっている。 | 見てもらってはいるがちゃんとその通り行動できているかはまだ対応に甘い部分があるので、柔軟に対応し順次改善していく。 |
| | 15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 5 | 0 | HUGなどを活用し形式に沿った計画を立てている。また、出社後や退勤前にミーティングも設けて共有している。 | 店舗が増えたら定例会などを計画しなければならない。 |
| | 16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 5 | 0 | 左記通り作成されている。 | 児童や職員が今後増えてくるといかに順守できるかが難しくなってくるので、順次対応できるようにしていく。 |
| | 17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 5 | 0 | 職員全員で行っている。 | 今後、人数が増えたら明確に分業を考えないといけない。 |
| | 18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 5 | 0 | まだ、児童も少なく個別で行っているので必然的に固定化されていない。 | 今後、人数が増えたときにいかに柔軟性を持たせるかが課題。 |